



吉高人権だより

2022年 3月号

愛媛県立吉田高等学校 人権委員会発行

「ユニバーサルデザイン」

機械建築工学科 西田 雅史

みなさんは「ユニバーサルデザイン」って聞いたことありますか？ 実は「デザイン」といっているけど、「考え方」なんです。ちょっと似ていますが、「バリアフリー」という言葉もあります。バリアフリーなら聞いたことがある人も多いのではないのでしょうか。

バリアフリーは子供やお年寄り、障がいがある人などが使いづらいもの、「バリア（障壁・障害）」をなくしていこうという考え方です。例えば、駅や歩道や、いろんな建物で段差や隙間があると車いすを使用している人は通れなかったりします。そこで「新たに段差や隙間のないスロープを作る」というのがバリアフリーの考えです。

それに対して、「はじめから段差や隙間を作らない」という考えが、ユニバーサルデザイン（特定の人だけでなく、みんなと一緒に、使いやすいデザイン）の考え方です。年齢や性別、国籍、障がいの有無に関係なく、みんなと一緒に、便利に使えるように、製品・建物・空間をデザインしていこうという考え方です。

以前は公共の場所にあるトイレに車いすのマークが表示され、障がい者用と表示されているトイレがありましたが、そのようなトイレは、現在見かけなくなりました。その理由は、障がい者用トイレと表示するのをやめて、「多目的トイレ」と表示するようになったからです。それにより、バリアフリーだったトイレがユニバーサルデザインになり、特別な人だけのモノではなく、小さな子供を連れた人、荷物をいっぱい持っている人など不特定多数の人が使いやすいモノとなります。

このように形があるモノだけでなく、情報、サービス、思いやりの心なども含む目に見えないものをユニバーサルデザイン化してみてください。モノが使いやすくなると、それを使う人たちのストレスが少なくなるのと同じように、障がいのある人だけががんばるのではなく、心のユニバーサルデザイン化が進むと、より人と人との関係がスムーズになると思います。

【DV未然防止講座】



2月4日（金）、愛媛県DV防止対策推進会議委員の越智やよいさんを講師にお招きし、1・2年生を対象にDV未然防止講座をオンラインで行いました。DV（ドメスティック・バイオレンス）という「暴力」というイメージを抱きがちですが、DVは身体的暴力に限らず、精神的に束縛したり、言葉で追い詰めたり、ストーカー行為をすることもDVにあたることを学びました。DVを防止するためには、男らしさ・女らしさの偏見（ジェンダー・バイアス）にとらわれず自分らしく生きること、自分の気持ちを尊重した上で他人も尊重するコミュニケーション・スキルを身に付け対等な関係を作り上げること、当事者間の問題だけではなく社会全体の問題と捉えることが大事であると学びました。

今月は、西田先生に「ユニバーサル・デザイン」について文章を書いていただきました。いくつかユニバーサル・デザインの工夫がされたものの写真を紹介しますので、どこにユニバーサル・デザインの考え方が生かされているかを考えてみてください。

